

第2回上山市みらいの学校構想検討委員会 会議要旨 (R6.12.23)

<委員より出された主な意見>

■みらいの学校づくり意見交換会で出された意見内容について

- 検討委員会の重要項目の集計結果は、「学力向上と学習環境」、「豊かな人間形成」、「学校、学年、学級の数・規模」、「学校と地域との共創」、「教育の質の確保」が上位（1～5位）にある。別添参照
- 小規模学校の子どもは、コミュニケーション能力が難しくなるという懸念の記載があるが、過去には分校のシステムがあった。低学年の子どもは少なくとも大丈夫ではないか。教職員は仕事が少なくなれば、成り手が増えるのではないだろうか。現行制度以上の小規模学級をたくさん設置することも一つの手ではないか。

■「適正規模・適正配置」、「複式学級」、「小中一貫教育」について

- 国際的に日本の学級人数は10人以上多い。ただし、日本の財政では20人学級は目指せない状況。上山だけ出来ないかという、だれが財政負担するかという問題が出てくる。
- 山形県のさんさんプランについて、小学校1～5年生の場合、1学年1学級の場合は最大で35人で、2学級以上の時は1学級の最大人数が33人の倍数となっていく。

■アンケート調査実施概要について

- 検討委員会での議論を充実させるためのデータとしてアンケートを実施する。
- 検討委員会の重要度ランクもアンケート作成の際に考慮して欲しい。
- アンケートの対象は、保護者・市民の他に、児童生徒や教職員にも意見を聞いた方が良いのではないか。
- 保育園等の未就学児の保護者は、小・中学校に比べて意見交換会への参加率も高い。当事者となる将来に向けて、是非ご意見をいただきたい。
- 少子化という問題、統計データを示し考えたうえでなのか、アンケートの順番・構成にこの前提を含むかどうかはとても大事だと考える。
- 意見交換会の意見資料2②の施設毎の一覧を見ると、赤文字の学校現状維持・小集団を望むメリットが圧倒的に少なく、今後、黒文字の学校統合・大集団を望むメリット・意見が多く出ることが推測できる。今後行うアンケートは学校統合ということを意識し、少子化の影響・課題の認識等については掲載せずに、質問していくのが良いのではないか。
- 意見交換会でも学校統合・大集団を求める意見が多かったことから、これから行うアンケートでは、直接「統廃合」について聴く必要があるのではないか。様々な意見があってもよくて、そのような人達と合意形成していくことが大事なのではないか。 以上